第 2015-36 号

恵みと真理のニュース

2015 年 9 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　軍生活を通して常に感謝する心で福音伝道に力を尽くすように聖徒として変えてくださった神様に感謝します

わたしは、強く雄々しくあれと命じたではないか。うろたえてはならない。おののいてはならない。あなたがどこに行ってもあなたの神、主は共にいる。（ヨシュア記　１：９）神様が下さる御言葉だと思って軍隊に入隊しました。しかし、カンワォンド北朝鮮と一番近い所に入隊して現実は苦しみでした。見えるのは軍人と山しかいないところでした。今まで大きい都市で住んでいた私には苦しくて日々どうやって暮らすか漠然としました。期待した部隊の教会も10坪くらい広さで十字架だけかけてあって椅子一つ、聖書一冊さえもなかったです。20年間教会で多くの聖徒と共に礼拝して神様を支えた私にはびっくりしてこれが礼拝なのか間違った考えもしました。入隊の前神様が私に与えて下った御言葉を忘れ不平不満をしてたまには私を遠い山の田舎で導かれた神様を恨みました。

そのように軍隊生活を1年間が過ぎて小さくてまるで黒人のような顔色をしている新兵が入りました。私が小大長として初めて新兵を面談してみたら貧しい家庭で生まれ育った兵士でした。4歳の時に母が自殺して父は家出し祖母もいなくて祖父から育った青年でした。学生頃にはいじめられ友達が一人もいなかったし高校を卒業をするまで誰からも愛するよと聞かれたことが一回もなかったそうです。この兵士が異端の事でニュースに出て社会で問題を起こした異端団体の聖徒であることを知りました。この宗教は特に集中的に大学生と青年を対象で伝道する有名な団体です。学生頃は友達から殴られ社会からも捨てられて一人ぼっちになた彼に“あなたを愛すると手をだした異端の団体の人々から親切な言葉と行動にだまされたのです。 今まで異端に入っていたので部隊でも他の兵士にも異端の教理を教えました。その友達があまりにもかわいそうでした。それで、初めは熱心にこの兵士にイエスキリストによる救いの恵みと真理について説明して真のキリスト教を教えることに力を尽くしました。しかし、彼は全く聞かなかったです。救いの信仰、聖書の信仰が確実でない人は異端に惑わされたので近づいたらいけないと思いました。そう思って私は神様にたいする感謝が溢れました。聖書的な正しい救いの信仰を持ち神様を信じる聖徒になったことが頭が良いからでなく神様の恵みで聖霊の働きである事を悟ったからです。すると、イエスはお答えになった。「シモン.バルヨナ、あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ。（マタイの福音書　16：17）御言葉のような弱い信仰ですが、私が持っているこの信仰が真の私を愛し選んでくださった神様の恵みのプレゼントである事を確実に知りました。そして夜遅く教会に行きました。十字架の前で膝をまずいて賛美し祈りました。

今までの恨みと不平した事を悔い改めました。一番北朝鮮の近くにある田舎にいると不平して教会の希望を見ても不平して様々なことで神様を恨んだ私が恥ずかしくて涙の祈りをしました。そして今までの軍隊でクリスチャンの模範にならなくて兵士に福音を伝えなかった事を悔い改め神様に赦しを求めました。 ただ十字架一つしかないと不平しましたが振り替えてみると私の罪を赦したイエス様の十字架かを見て考え感謝しました。小さい教会でも世のどこの大規模の建物より美しくて大きく感じられ感謝しました。教会に聖書も置いてなかったので聖書をもっと尊く思い御言葉を愛するようになって感謝しました。意志がなかったので主の前で膝をまずいて真実に切なく神様を仰ぎ祈るようになり感謝しました。

神様は私に謙遜の信仰を願っていました。そして、兵士達に福音を伝えるためここに導いてくださいました。傷を受けて寂しい青年達を主の愛で慰めて正しい信仰の道で導くようにここに送ってくださいました。これを知らなくて様々なことで恨んでいた私には聖霊が望まれなかったのです。それを悟った後からその兵士のためたくさん祈りました。すぐ伝道して言い争わなくて彼の代わりに硬くなった心が壊れよい心になり私が伝える福音が生きている神様がおっしゃるように聞こえるようにしてください。　そうするうちに彼が一兵になるとき初めて教会に来ました。もちろん教会に来て少し寝るだけでした。しかし、私はそれも感謝で大きく感動を受けました。毎日ように彼に行って神様はあなたを愛するよと話して暖かく抱きました。すると彼の心が少し開かれることを感じました。異端団体の間違った教訓を熱心に従った彼が神様と聖書に対して正しく知りたがったです。御言葉と聖霊の働きでした。祈りの勝利でした。前と後ろが見えなくて苦しいときには祈ることしかないことをこの事を通して深く悟るようになりました。

その後彼が上兵になったときには異端で落ちて生活した事を後悔してこれから真実にイエスキリスト教の神様を信じ教会の一番前に座って軍宗兵よりもっと大きく拍手をして賛美をする聖徒になりました。兵長の時には前でギターをひいて準備賛美を歌って礼拝を導く真実な聖徒になりました。過去自殺をしようとしたことが信じられないほど全ての生活にも適応して全てのことでも体表する模範兵として先発されました。

神様に全ての栄光を捧げます。兵役の中で得たこの大切な経験を持って福音伝導に使命を尽くします。最近は準戦時の非常状況である後輩兵士達のため切に祈ります。国と民族のため献身する彼らの体が健康で忠実に勤務をして聖徒の兵士達は以前のような神様の恵みを体験して信仰の聖徒で変え不信者である兵士は兵役の期間に福音を聞いて信じ神様の子供として生まれ変わる貴重な時間になるのを希望し祈ります。

［信仰コラム］　聖 徒 の 感 謝 生 活

″すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神をあなたがたに求めておられることである。″（テサロニケ人への第一の手紙 5:18）

人には感謝の気持ちを感じる情緒があります。 これは、先天的資質というより後天的性格に属します。学びと訓練を通じて改善されて豊かになっています。監査を感じる情緒が豊かで積極的に表現する生活をするように努力するのは実に価値があり、有益です。記録された本文メールの言葉で、感謝生活に対する教訓を得ます。

第一に、私たちが感謝すべき対象を明らかに指しています。

’キリスト・イエスの中で君達を向けた神様’と明示しました。 一般的に人たちは人間関係で相互感謝を表現します。 ところが時には品性を伴わないどんな存在についてお辞儀をしたり、宗教儀式を行う人々があります。 このような行為は偶像崇拝の形と言うことができます。 もちろん、聖徒も自然界のどんな存在について感謝の気持ちを感じ、表現できるが、究極的には神様ともに向けた感謝で表現しなければなりません。 自分が持って享受するすべての善良なことにより、神様に感謝をしなければなりません。 自分が享受する全てのものが神様から与えられることを考えるなら、これはあまりにも当たり前の行為です。 凡事に神様に感謝の気持ちを表すのは創造主の神様を肯定する行為であり、神の花を持たせる行為です。

第二に、凡事に感謝する理由が何かを教えてくれます。’キリスト・イエスの中で’と明示しました。 キリスト・イエスの中にあるという事実が私たちが感謝する理由の一つの茎であり、彼から数え切れないほど感謝する理由が伸びて出ています。 、周辺の位置が’キリスト・イエスない’になるのは極めてすばらしくて神秘的なことです。 十字架に謳われて死んでいらっしゃったですが復活したイエス様を自分の救主と信じて出迎えた人は聖霊に生まれ変わってキリスト・イエスの中にいることになります。 ’キリスト・イエスない’という表現はキリスト教の実像と本質を言ってくれる最も適切な表現です。 聖徒という神聖になった人を指すものと神聖というキリスト・イエスの中にある者に与えられる神の恵みです。 この恩は全部数え切れないほど豊富です。 そして将来、享受する栄光も全部形言することができません。

第三に、凡事に感謝する生活をするものは神の意味だと言いました。

神様の意味は誰にでも決して無視したり、疎かに考えることはできないです。 人が神様の意志に逆らって行う形態を四つに分けることができます。 第一に、神様の意味に対する無知による場合があります。 多くの人々が神様の意味が啓示されて記録された聖書を等閑にして、神様の意志に逆らって滅亡の道を歩んでいます。 第二に、神様の意味を故意に逆らう場合があります。 アダムとハワは神様の意味を知りながらもサタンの誘いを受け、神様の意に逆らっておこないました。 第三に、神様の意味を誤解したり、歪曲されて解釈して誤った行動場合があります。 今日も神様の意思が明確に啓示された言葉を読むときに自己中心に私的にこれを解いて解析することによって、かえって神様の意向に反していくことが多いです。 第四に、神様の意味を知っているが、体が弱くして、その意思に従って行わない場合があります。

神様の意味を知ってその意に順従する生活が最も賢明で恵まれた生活です。 神様の意思に合わない自分の意は十字架に釘をさしてしまって、神様の意志に沿って生きるのが成功と勝利の人生です。 聖書に’これが神様の意味だ。’と明示された言葉の一つが本文お言葉です。 ″あなたはどのようにしてこんな難しい状況でも神に感謝しますか?″という質問について″神様の意味だからです。″と答えする聖徒の信仰はその誰もその何も動揺させません。 このような信仰態度からの感謝より、もっと崇高でよいにおいの感謝はありません。

神様を向けた感謝を多様な姿と方法で表現してください。 神様を向けた感謝に富饒な聖徒になって下さい。神様を向けた感謝があふれた生活は実に聖徒らしい生活です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

正常的なクリスチャン

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

事物を分別しようとすればその事物が持った特性を察します。 すべての事物には固有した特性があります。 人に対しては皮膚の色、頭髪の色、骨格、顔付、音声などの特性で分別します。 今日には遺伝工学の発展で遺伝子の検査から分別することができます。 クリスチャンには格別な特性があります。 今日の本文にはその特性が記録されているのにその特性に対して詳らかによく見ます。 もしこんな特性がなければその人は正常的なクリスチャンではないです。

第一、正常的なクリスチャンはイエス様を見られなくても信じます。

人々に福音を伝えれば “神様を見せて下さい。そうすれば信じます。” と要求する人に会います。 彼らの立場では無理な要求とはないです。 実際に神様が自分の姿を人生に現わして見えたら福音の伝道者が骨切って伝道する必要がないだろう。 ところで事実はそうではないです。

昔のイスラエル民は神様が天から降って親しくおっしゃることを直接経験しました。 民が神様を迎えようと市内山に立っているのにいなずまが走って雷が鳴りました。 神様が火の中で天から降ったら市内山にけむりが立ちこめるようで山の全体が大きく震動したしラッパの音がますます大きく鳴らしました。 モセが言うと神様が音声で答えました。 イスラエル人々はこんな光景を見たにもかかわらず何日が経たなくて神様が禁止した偶像を作って敬排しました。

“神様の天から降る姿とその音声を直接きくことができないと言っても神様が行う奇蹟を私がはっきりと体験したら屈強な信仰を持つでしょう。” と言う人がいるでしょう。 しかしやはりそうではないという事実をイスラエル民が証明して見えました。 イスラエル民は 40 年間荒野を行進しながら神様が施す奇妙で驚くべきな能力を体験しました。 40 年間雲の柱、火の柱の引導を受けました。 また天から降りてくださる日用する糧食であるマンナを 40 年間食べました。 神様が苦い水を甘いようにして盤石から水が出るようになさる奇蹟も彼らが体験しました。 40 年間の荒野を行進しながらも衣服が古くなかったし靴がすり減らなかったし足が水ぶくれにならない奇蹟を体験しました。それなのに大多数のイスラエル民は神様を疑ったし不服しました。 人間はずるくて愚鈍です。昔の人や今の人や違うところないです。今日も神様が天から降って親しく音声でおっしゃって、多くの奇蹟を施すと言っても頑悪して愚鈍な人生はそれによって受けた衝撃と感動が何日も行くことができなくてすべて消えてしまうでしょう。

復活したイエスキリストが弟子が集まった家に現われました。 弟子の中にトマスはその席になかったです。 復活したイエス様が彼らの中に現われたと弟子がトマスに言いました。トマスが答えるのを “「わたしは、その手に釘あとを見、わたしの指をその釘あとにさし入れ、また、わたしの手をそのわきにさし入れてみなければ、決して信じない」。” としました。

八日を経って弟子がまた家の中にある時にトマスも一緒にあって門が閉まっていました。イエスキリストがいらっしゃってトマスにいうのを “「あなたの指をここにつけて、わたしの手を見なさい。手をのばしてわたしのわきにさし入れてみなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい」。” としました。 驚くべきな光景を見たトマスが “トマスはイエスに答えて言った、「わが主よ、わが神よ」。” と言うとイエスキリストが “「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」。” としました。 童貞女の身に聖霊に孕胎されて人の身を着てこの世の中へいらっしゃったイエス様を皆さんは見られなかったです。 十字架に釘付けて血が流れて死ぬことも見られなかったです。 墓に葬られることも見られなかったです。 復活した姿も見られなかったです。 天に上がる姿も見られなかったです。 そうであるが皆さんはイエス様を信じています。 イエス様を見られなかったが信じるこれが正常的なクリスチャンの特性です。

第二、正常的なクリスチャンはイエス様を見られなかったが愛しています。

愛はさまざまな形態で現われます。 自分中心的な愛、エゴイズ愛はイエス様に対する愛では適当ではないです。 イエス様を愛するそれが生の究極的目的になって、最高の価値にならなければなりません。 イエス様を愛するからあう逼迫と冷待と損失と不当な待接を嬉しく忍耐しなければなりません。 ペテロは晩年にローマへ行って福音を伝えている途中に皇帝の迫害の時十字架刑にあったがペテロ自分の要請によって十字架に逆に差し込まれて殉教あったと言います。 どの面で見ればペテロはイエス様の弟子として呼ばれを受けて 3 年以上イエス様の教えを直接受けました。 イエスキリストが行う幾多の奇蹟を目撃して体験しました。そして復活したイエス様を見ました。 イエスキリストが天に昇る場面も見ました。 だから神様を死ぬまで愛したのが非常に当たり前であると思われることができます。 ところで皆さんはイエス様を直接見た事がないにもかかわらずイエス様を愛することは奇妙で驚きべきです。全く神様の選ばれを受ける人だけが可能な事です。“「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は、さいわいである」。” という本文のお話はその愛を現わしています。イエス様を見られなかったが愛するのが正常的なクリスチャンの特性です。

第三、正常的なクリスチャンはイエス様を見られないながらも言えない光栄な楽しいことで喜びます。

人がイエスキリストを信じなければならない究極的な理由は霊魂の救いにあります。 イエスキリストを信じる理由の中に霊魂の救いよりほかのものを前に立たせる人は正常的なクリスチャンではないです。 そんな人が福音を混雑させます。 霊魂の救いと天国に入ることは一つです。 霊魂が救われると将来に身が生命の復活をするようになります。 クリスチャンがこの世の中で経験するすべてのものは霊魂の救いに比べれば付随的なのです。 すべてがよくできて壮健になることも付随的なことに過ぎないです。 人がすべての天下を得てからも霊魂を失くせば、霊魂の救いを得ることができなければみじめな人生です。 結局には滅亡で地獄の刑罰であるからです。

イエスキリスト外には救いがないのを心から信じなければならないしその信仰を行うことで見えなければなりません。 こんな信仰を持った人だけが霊魂の救いを受けます。 クリスチャンの心霊の中で湧き出る喜びは霊魂の救い受けたことがいくら大きい幸せなのかを悟る深さに比例して現われます。 霊魂が救い受けた事実による楽しみよりもっと大きい楽しみはないです。 イエス様を見られないながらも霊魂の救いを信じて言えない光栄な楽しいことで喜ぶのが正常的なクリスチャンの特性です。

第四、正常的なクリスチャンはさまざまな試験をよって心配しても少々だけでむしろ大きく喜ぶようになります。

聖書には心配するな、気づかわないと言うお言葉が多くの所にあります。 ところで本文には心配することにならないのを指摘しています。クリスチャンが心配することを見てふしぎと思うのではないです。 その懸念の原因は経済的問題、家族問題、対人関係、任務遂行、肉身の健康問題などさまざまです。 心配するによって憂鬱で悲しむ聖徒を信仰がないと判断することは度が外れた速断です。 その理由はその聖徒が懸念を乗り越えて “むしろ大きく喜ぶ” 姿を見せてくれるでしょうからだ。 “今しばらくのあいだは、さまざまな試錬で悩まねばならないかも知れないが、あなたがたは大いに喜んでいる。” とおっしゃるとおりなります。クリスチャンには懸念をすばやく消化させることができる理由があります。 第一理由は、生まれかわった人であるからです。 生まれかわった人はさまざまな試験をよって少し心配してもまっすぐに喜びを回復します。 二番目理由は、天におさめた企業があるからです。 三番目理由は、末世に現われた救いを得るように能力で保護を受けているからです。 四番目理由は、さまざまな試験も有益にならせてくださるからです。 愛する皆さんはさまざまな試験をよって心配するようになる時神様がイエスキリストにあってくださった喜び理由を思い出してください。 そんなにして “夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。”（詩篇，30:5） “悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり”（コリント人への第二の手紙，6:10） “少し心配するようにならざるを得ないがむしろ大きく喜ぶ” クリスチャンの特性を遺憾無く現わすようになるように願います。

正常的なクリスチャンはイエス様を見られなくても信じます。 正常的なクリスチャンはイエス様を見られなかったが愛しています。 正常的なクリスチャンはイエス様を見られないながらも言えない光栄な楽しいことで喜びます。正常的なクリスチャンはさまざまな試験をよって心配しても少々だけでむしろ大きく喜ぶようになります。 皆さん皆が正常的なクリスチャンで生きて行くように願いします。